

令和4年度 日本海にぎわい・交流海道ネットワーク講演会

《 参加首長等による発言・まとめ 》



■浜田市副市長 砂川 明

失礼いたします。浜田市の砂川でございます。

小早川さんと加藤さんには大変有意義なお話いただきましてありがとうございます。大変参考になるお話しでありました。

まずクルーズ船の関係、浜田市もですね、これまでクルーズ船の誘致をしておりまして、平成30年度と令和元年度にはコスタ社のネオロマンチカ運行にそれぞれ参加、2回入港いただいております、本当にありがとうございます。残念ながらいまコロナでこの3年間はクルーズ船の入港がないわけですが、いま一生懸命また来年度に向けて入港のポートセールスもさせていただいておりますのでぜひまた、その節はよろしく申し上げます。浜田港も岸壁が5万トンの岸壁で水深14メートルということでなかなか大型クルーズ船の入港ができない状況ではございますが、是非また入港いただければと思っております。

お話し聞いて少し勉強になったことがありまして、これまでもクルーズ船誘致のどの自治体もそうですけど、おもてなしに力を入れておられると思います。それぞれの独自性を出してしっかりおもてなしをして、入港されて寄港された方、上陸された方をおもてなしするというのは一生懸命やられている。ただ基本的に地元の人に喜んでもらうという話し、船に乗ったりですねそういうことも重要なこと、自分がやっぱり体感してクルーズ船の良さを知るといことも重要なことだと思えました。当市の市長も先般、クルーズ船に乗っ

て非常に良かったと言っております。わたしはまだ乗ったことございません。旅行好きで飛行機とか列車はよく使うんですが今度はゆっくり船旅もしたいなと思っております。

もうひとつストーリー性のお話し、ただ、あとストーリー性を出すためにはこれまで近隣港とはどちらかといえばライバルみたいな思いを持つんですが、そうではなくてただどんどんスキルアップしてですねその日本海側、今日のちょうどテーマにありますようにお互いが連携して交流することが、非常に重要なお互いのプラスになるのではないかと考えたところがございます。ありがとうございます。

風力発電の方のお話し、加藤さんは今いらっしゃらないですが実はわたくしこちら稚内市、7年前にプライベートで家内と来ておりまして感動させていただいております。明日も参加させていただくんですが、宗谷岬とか色々みたんですが今日お話しがありましたですね宗谷岬のウインドファーム、あの風車が建ってる風景がいまも1番頭に残っているんです。仕事柄やはりそういうことも関わっておりますので、すごいなと思ひまして今日もさらにこれから増設される、やはりそれを送るための送電線というのが非常に当市でもいま5万キロワットくらいの風力発電をしております、あと10万キロくらいあれば計画がでるんですが、どうしても送電線というのが重要になります。

特にいま自然エネルギー、再生エネルギー重要になっております。当浜田市でも今年の9月、2050浜田市ゼロカーボン表明というのをしまして、4月にはカーボンニュートラル推進室も作って、自然エネルギーに力を入れようと思っております。

色んな取り組みを参考にさせていただいて浜田市も努力してまいりたいと思います。今日はありがとうございます。